

地域がん診療連携拠点病院<川崎市立井田病院からのお知らせ>

第72号 井田山 (いだやま)

基本理念「井田病院は、自治体病院として、市民から信頼され、
市民が安心してかけられる病院づくりを目指します。」


発行責任者 北村 修

編集 川崎市立井田病院 ホームページ・広報委員会

川崎市中原区井田2-27-1

電話 044-766-2188 (代)

当院ホームページをご覧ください

市立井田病院 

診療費支払機が新しくなりました！！

平成24年5月に井田病院が新棟オープンした時に導入した診療費支払機2台が老朽化した為、令和3年3月に新しい診療費支払機に入れ替えました。昨年、クレジットカードの読み取りが偽造防止効果の高いICチップ付きクレジットカードで読み取ることが義務化された為、ICチップ付きクレジットカードを読み取ることが出来ない1号機及び2号機は現金専用機として稼働していました。そのため、患者さんにはご不便をお掛けしていました。今日では3台すべての診療費支払機でクレジットカードの取り扱いが出来るようになりました。また、外国語によるガイダンス表示も旧機は日本語と英語の2カ国語でしたが、新機では日本語と英語に加え、中国語、韓国語、ポルトガル語、ベトナム語の6カ国語の対応が可能になり外国の方にも使いやすくなりました。

旧診療費支払機



新診療費支払機



【記：医事課 五十嵐 大介】

～新任医師紹介～

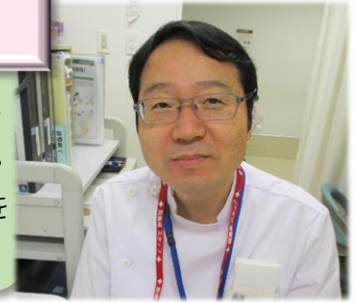


さくらがわ ただゆき
櫻川 忠之 外科 部長

2021年4月1日より川崎市立井田病院の外科部長として赴任しました櫻川忠之です。専門は消化器外科、特に肝胆膵領域です。最近は腹腔鏡手術にも力を入れています。地域の皆様のお役に立てるよう頑張っていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

みすたに のりお
水谷 憲生 整形外科 部長

2021年4月に、整形外科主任部長として着任しました。整形外科には脊椎、腫瘍、上肢、下肢といういろいろ専門がありますが、私は下肢の中の足の部分が専門であります。出身は大阪、苦手な物は納豆です。みなさんに選ばれる、満足していただける医療を心がけていきます。よろしくお願いいたします。



たけうち かつひと
竹内 克仁 整形外科 担当部長

2021年4月から井田病院に赴任しました竹内克仁と申します。専門は骨・軟部腫瘍および転移性骨腫瘍ですが、骨折など一般整形外科ももちろんやります。これからどうぞよろしくお願いいたします。



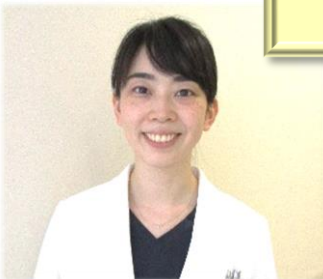
にしなりた のりこ
西成田 詔子 呼吸器内科 副医長

2020年7月より井田病院呼吸器内科で勤めさせていただいております。医師人生を川崎市立川崎病院で開始し、他地区での勤務を経て、久しぶりに川崎市に戻ってまいりました。地域の皆様のお役に立てるよう尽力いたしますので何卒宜しくお願い申し上げます。



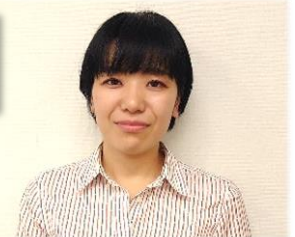
きむら もえみ
木村 萌美 歯科口腔外科 副医長

皆様はじめまして。歯医者はあまり好きじゃない、という方も多いかもしれませんが、親知らずの抜歯や全身疾患のある患者さんの抜歯、顎関節疾患や口腔腫瘍など、口腔外科疾患でお困りの時にはどうぞお気軽にご相談ください。地域の皆様に頼りにされる口腔外科医を目指し、精進してまいります。よろしくお願いいたします。



すずき
鈴木 なつめ 眼科 副医長

本年4月より赴任いたしました、眼科の鈴木なつめと申します。地域の皆様に寄り添える、丁寧な診療を心掛けたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



『日本最高のコロナチームを目指して』

2020年新型コロナウイルス感染症が世界中で流行し、ダイヤモンド・プリンセス号の患者さんを当院で受け入れることを聞いた時、未知の新興感染症への興味とやりがいからすぐにコロナチームに立候補し、以後コロナ診療に携わってきました。この1年間は人生で一番長く忙しい1年でした。

コロナチーム立ち上げ当初は、未知なる感染症が故にスタッフ皆が不安を抱え、常に緊張感の張りつめる中で仕事をしていました。時には意見を衝突させながらも、スタッフ間でコミュニケーションを取りながら1つ1つ問題を解決し、今では素晴らしいチームになったと思っています。

この1年で100人以上の患者さんを担当してきましたが、コロナチーム立ち上げ当初に入院した1人の患者さんが大きな転機となりました。その方は入院後に重症化し、いつ亡くなってもおかしくないような呼吸状態の中で、死を覚悟しながらも不安を隠し、いつも明るく声をかけてくれました。どうか救えないかと連日泊まり込んでモニターを見つめる日々が続きましたが、ある夜「先生、正直に言って自分は死にますか？」と聞かれ、自信をもって「助けます」と言えなかった悔しさは今でも忘れられません。その方は見事にコロナに打ち勝ち、元気に退院して今でも外来に顔を見せに来て下さっています。その元気な姿が何よりの活力となり、またその経験が大きな自信になっています。

当院では中等症患者さんの診療をしています。「中等症」と一言でいっても症状は様々です。この1年の経験と知見から、患者さん1人1人に最善の治療を提供する、また絶対に重症化させないという強い思いで日々診療をしています。残念ながら不幸な転帰を辿る場合にも、最期にできる最善の医療・看護を提供できるよう心掛けています。

今後も井田病院一丸となって「日本最高のコロナチーム」を目指して、コロナウイルスと対峙していきたいと思います



【記：コロナチーム医師 阿南 隆介】

『最幸の看護を目指して』

井田山で71年間結核患者の治療を続けてきた病棟が、昨年「新型コロナウイルス感染症患者受け入れ病棟」に姿を変えました。「未知なる感染症」の報道が増え、感染症に強い井田病院が、増える患者を受け入れなければならない日が来ることは明白でした。

40床の病棟が満床になる可能性に備えて、必要な器材などの設備を整え、スタッフの動線を考え物品を配置しました。看護師間で防護服の着脱法から始まり、医療機器の取り扱い、新型コロナウイルス感染症に関連する病態の研修会を積み重ねながらスタートしました。井田病院に求められたのは中等症患者の受け入れでしたが、瞬く間に呼吸状態が悪化する病状に看護の力が試される日々が繰り返されていたように思えます。

病棟の状況は日々メディアで報道されている状況と同じで、看護師の活躍と共に、労働環境の辛さが強調される傾向がありました。確かにその通りでした。常にビニール製の防護服に身を包み、袖口から汗が流れ、顔を覆うゴーグルが熱で曇り視界が妨げられる中での細かい作業、看護師の身体は時間の経過と共に脱水状態になり、体力の消耗が激しい…。そんな中で私たちのモチベーションを高めてくれたのは、呼吸状態が改善するのが目に見える患者さんの姿でした。そして、最も私たちに力を与えてくれたのは、症状が改善して退院していく患者さんから贈られる言葉とその姿でした。患者さんから「入院したとき『死』を覚悟し不安でしたが、毎日先生や看護師さんに優しく言葉を掛けていただき、検査の結果や病状の説明を聞いていたので、不安は払拭されどんどん元気になっているんだと希望を持って闘病できました。人と会話することでエネルギーがもらえて薬になっているんだと感じました。」と言われ、とてもうれしかったのを昨日のことのように覚えています。

病院から見る夜明け前、東の空がオレンジ色になり始める頃、地平線に航空障害灯の赤いランプが宝石をちりばめたように瞬く、人流が制限され街の動きが止まったからか、大気が澄んで遠くまで見渡せる…。いつまでウィルスとの闘いが続くのでしょうか。ワクチン接種が始まりようやくトンネルの先に小さな光が見えてきたように思います。いつかまた結核病棟に戻るときに、私たちは専門知識や技術を駆使し難題に立ち向かうことが出来たと言えるように、これからも闘っていきたいと思います。



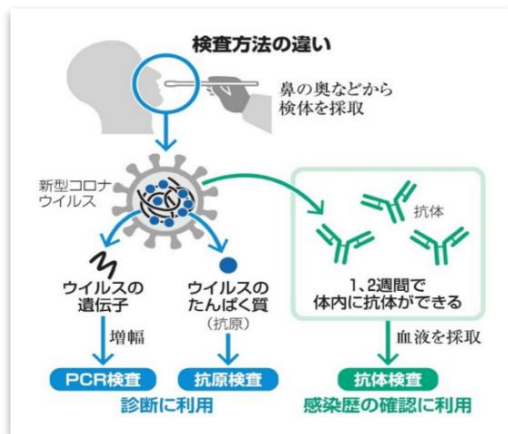
【記：看護部 伊藤 晴美】

新型コロナウイルス抗原定量検査とは？

新型コロナウイルス感染症の猛威に世界中が未だ厳しい状況におかれています。

当院では昨年2月から発熱外来を開設、また従来結核患者専用病棟だったものをすべてコロナ患者病棟とし4月から中等症患者を受け入れています。

コロナ感染の検査として、当院では結核菌検査に使用している、アメリカ製の全自動PCR装置を有しており、その有用性が期待されていましたが、世界的な試薬の需要量の急増により試薬の供給量が非常に少なく、需要に応えられませんでした。保健所へ依頼するなどに対応していましたが、院内で迅速に感度の高い検査ができる体制を作るべく、昨年9月から抗原定量検査を開始しました。



抗原定量検査装置

【抗原定量検査とは？】

ウイルスに特異的なRNA 遺伝子配列を増幅し検出する遺伝子検査（PCR法）が広く知られてます。抗原定量検査は化学発光酵素免疫測定法（CLEIA法）という原理を用いた専用の測定機器で、抗原の量（ウイルスの量）を定量的に測定することができます。感度（どのくらいのウイルス量まで測れるか）、特異度（目的のウイルス以外にも測りこんでいないか）は簡易PCRと同等で、空港検疫等でも採用されています。最大の特徴は、操作が簡単で、速く（装置の検査時間は30分、前処理を含めても1時間以内）、大量に（1時間に120件）、ウイルス抗原の量（＝感染力）を定量的に測定することです。導入以来24時間365日体制で多くの検査を実施してきており、当院新型コロナウイルス感染症診断の主軸となっています。

変異の有無については検知する事はできませんが、現在のところその影響はありませんので抗原定量検査の有用性については何ら変わりありません。

【結果が陰性なら大丈夫？】

どんなに感度が良い方法でも、検査結果が「陰性」となったからと言って安心はできません。それは「採取した検体に」検査で検出できる量のコロナウイルスが含まれていなかったことを意味しているだけで「新型コロナウイルスに感染していない」を証明するものではありません。また検査結果は検体採取時点のもので、今日陰性でも明日は陽性という事例はたくさんあります。一度の検査が陰性だからといって安心して、感染対策を緩めてしまうと感染を広げてしまう可能性があることを御理解いただきたいと思います。

【記：検査科 佐野 剛史】

♪井田病院の特製春巻き♪

当院の人気献立の一つである春巻きを紹介します！！



当院の春巻きは、冷凍食品ではなく、
手作りをしています！
中にはしそ葉が入っており、その風味
は格別です☆

副菜として、キャベツの生姜和え、かぶのくずあん
かけを提供しています。
キャベツの生姜和えはさっぱりと食べられ、かぶの
くずあんかけは、夏の期間は「冬瓜のくずあんかけ」
に変更することで、季節に合わせた食材を取り入れ
ています。



【記：食養科 九内 采子】

アゼリアビジョンで井田病院の動画が放映されました！！

当院ホームページで公開している「川崎市立井田病院
新型コロナウイルスと向き合う」の15秒バージョンの動
画がJR川崎駅東口側に設置されている大型画面（アゼリ
アビジョン）で3月26日から4月1日までの1週間
（合計112回）放映されました。JR川崎駅東西通路を
利用されている方に井田病院を広報することができました。
大型画面ならではの迫力のある映像が流れ、駅構内に音が
響き渡っていました。当院ホームページに掲載している動
画の曲調と違いアップテンポな曲調でご覧になった方は明
るく前向きな気持ちになったのではないのでしょうか。また
半年後に放映のエントリーをする予定です。川崎駅にお越
しの際はアゼリアビジョンに注目してください！

【記：地域医療部 尾上 茂樹】



JR川崎駅東口：アゼリアビジョンにて